



今年の高校入試の分析からこんなことがわかりました！

合格者の数学の平均点は、53.9点

☆正答率<sup>(※)</sup>が高かったのは、大問1の各問題、大問2以降の基礎的・基本的な知識や技能に関する問題です。特に式の計算やデータの整理、直線の位置関係については、定着が図られています！



特徴的な問題を見てみましょう！

2

1 智花<sup>ともか</sup>さんと啓太<sup>けいた</sup>さんは、宮崎県が読書県づくりに取り組んでいることを知った。そこで、2人は、智花さんの所属する1年生30人と、啓太さんの所属する2年生40人について、ある期間に読んだ本の冊数を調べた。次の表は、その結果を度数分布表に整理したものである。

このとき、下の(1)～(3)の問いに答えなさい。

(3) 啓太さんは、度数分布表を見て、1年生と2年生を比較し、12冊以上16冊未満の生徒の割合が大きいのは、1年生であると判断した。啓太さんがそのように判断した理由を、相対度数を使って説明しなさい。ただし、相対度数は四捨五入して小数第2位まで求めることとする。

<標準解答> (例)12冊以上16冊未満の階級の相対度数は、1年生が0.33、2年生が0.28であり、1年生の方が大きいから。

<ねらい>

この問題は、大きさの異なる2つの集団において、ある階級の度数を比較するために、相対度数を用いて、その理由を説明することができるかを問う問題でした。

<分析>

正答率は57.6%でした。課題としては、相対度数の意味やよさを理解し、自分の言葉で説明することや、論理的に考察することができていないことなどが考えられます。

<提案>

授業では、大きさの異なる2つ以上の集団のデータの傾向を比較する場合、相対度数を用いることによって階級ごとの比較がしやすくなることを理解させるとともに、自分の言葉で説明し伝え合う活動を取り入れるなどの工夫も必要です。



「分かる！・できる！」まで教えよう！（授業改善のkeyword）  
各問いの出題内容・ねらい及び正答率は裏面をご覧ください！  
詳しい分析は、報告書や県教育研修センターのHPをご覧ください！

(※)正答率については、合格者4,417人の中から、無作為に抽出した630人(14.3%)分のデータです。